

現代中国における魯迅：初級、高級中學「語文」教 學書を中心に

永末，嘉孝
長崎総合科学大学：教授

<https://doi.org/10.15017/9760>

出版情報：中国文学論集. 11, pp.157-180, 1982-10-01. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

現代中國における魯迅

——初級、高級中學「語文」教科書を中心に——

永末 嘉孝

周知の通り、昨年は魯迅生誕百周年であり、中國では盛大な記念大會や學術討論會が⁽¹⁾開かれ、更に切手・メダルの發行、⁽²⁾映畫・演劇の製作から「魯迅全集」一六卷入注釋付きVの刊行、各大學、各文藝誌もこぞって魯迅特集號を出すなど、多彩な行事が展開された。

さて、私は五月中旬から約半年間、ハルビン船舶工程學院に留學中であり、同學院の推せんで、記念大會に招待され、胡耀邦黨主席の記念講話や周揚の記念報告を聞くことができた。記念大會の狀況や講話については人民日報等各紙で報じられているので詳しくはふれないが、本稿執筆の一つの動機である胡講話について一言だけふれておきたい。

胡講話は大へん自信に満ち、且つ、表情たっぷりで、再三、會場に拍手をもたらしした。しかし、魯迅評價に關する限りでは、毛澤東の「魯迅は入黨こそしなかったが、眞のマルクス主義者・共產主義者であった……」であり、しかも、講話の半分以上が文藝自由化批判であつた。私は胡講話の「文學は單なる不平不滿の文學ではいけない

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

(4) には同感しながらも、それでは誰がいったい、「佳草」と「惡草」を判断し、選擇するのか？胡主席は「文藝界の同志や廣範な大衆が自己批判と相互批判を通して」と力説していたが、私はそこに「政治と文學」の問題が大きく横たわっていることを感じさせられた。記念大會終了後、私はその足で、大會と並行して開かれていた「魯迅展覽會」を見學した。北京のそれには、一カ月間、一日平均、三〇〇〇人が入場、その七〇%が學生・生徒であつたと聞いたが、しきりにメモをとっているこの學生・生徒たちは、宿題を課されて仕方なく來ているのではないか、それとも記念行事のバスに乗り遅れまいとして來ているのではないかと意地悪く考えたりもしたが、それにしても「日本時代の魯迅」「仙臺における魯迅」の展示に食入るようになっていた眼をみた時、何か熱いものを感じさせられてしまった。そこから、私はこの學生・生徒たちは、今、學校で、魯迅のどんな作品を、どのように教わっているのだろうかと無性に知りたくなつた。そこで滞在中、資料集めに奔走したが、文革中の教科書にいたっては、どの大學、どの圖書館にも無く、結局、友人のお子さんの使いふるしを數冊いただいた次第であつた。前置きが長くなつたが、本稿では、次の五點について考察しようと思う。

1、收録作品の概観

2、收録作品の學習課題の分析

3、文革中及び直後の教科書と現行本との比較

4、「魯迅の神格化」と『魯迅全集』注釋の問題

5、現代青年の魯迅觀

1 収録作品の概観

「語文」教科書収録の魯迅作品一覧

高		初 級 中 學						學 校
二	一	六	五	四	三	二	一	冊
拿來主義	藥 記念劉和珍君	雪 「友邦驚詫」論	藤野先生 孔乙己	論雷峰塔倒掉 孔乙己	故郷 一件小事	社戲	風箏 從百草園到三味書屋	作 品
三四、六、四	一九、四	二五、一、一八	二六、一〇、二	二四、一〇、二八	二一、一	二二、一〇	二六、九、一八 二五、一、二四	創 作 年 月 日
且介亭雜文	吶喊	野草	朝花夕拾	墳	吶喊		野草	出 處
(持ってくる主義) 未譯	藥 劉和珍君を紀念して	雪 「友邦驚詫 <small>いぶか</small> を詫る」論	藤野先生 孔乙己	雷峰塔の倒壊について	故郷 小さな出來事	宮芝居	風 百草園より三味書屋まで	日 譯 (岩波魯迅選)

現代中國における魯迅 (永末嘉孝)

級		中		學	
祝福	爲了忘却的記念	『喪家的』『資本家的乏走狗』	阿Q正傳(節選)	狂人日記	『吶喊』自序
二四、二、七	三三、二、七七八	三〇、四、一九	二一、一二	一八、四	三三、一二、三
彷徨	南腔北調集	二心集	吶喊	吶喊	『吶喊』自序
祝福	忘却のための記念	「家をなくした」「資本家の貧弱な走狗」	阿Q正傳	狂人日記	『吶喊』自序

(注) 全日制十年制學校(試用本)

中小學通用教材中學語文編寫組編

人民教育出版社出版、一九八〇年

初級中學六冊中一〇編、高級中學四冊中九編、合計一九編が収録されているが、初級中學の一〇編には所謂『雜感文』は「雷峰塔の倒壊について」と「友邦驚きいぶかる論」の二編だけであり、後は『朝花夕拾』『吶喊』『野草』の作品であり、それも生徒の發達段階に即した比較的とつきやすいもの、わかりやすいもの、別の言い方をすれば、美しい作品が排列されている。すなわち、第一、第二冊では「百草園から三味書屋まで」「瓜」「宮芝居」であり、魯迅の幼少時の回想である。第三冊では「小さな出來事」と「故郷」を収録、これもわかりやすい部類に入ると思う。

高級中學四冊を概観すると、小説と雜文がほぼ半數ずつとなり、雜文に重點が移され、且つ、雜文中でも、先ず

「劉和珍君を記念して」や「忘却のための記念」をとりあげ、革命のため、いたましい犠牲となった青年たちを哀悼し、生徒たちの心に「死者を生かしつづけよう」という狙いが窺われる。感受性の強い生徒たちに對しては、涙と憤りをもたらさずにはおかない作品選擇と言えよう。しかも辛亥革命前後の歴史や五・四以降の時代背景、反動政府の卑劣・兇暴さを把握させた上で、「藥」や「祝福」など、作品と雑文とをペーにした編集は美事だと言える。そして一方、「持ってくる主義」や「家をなくした」「資本家の貧弱な走狗」などの論争文を配置して、御用文人、正人君子を完膚なきまでにやっつける魯迅筆法、その諷刺と幽默、比喩と推理に富んだ雑文を讀ませ、魯迅の祖國愛と豊かな表現力を把握させようとの意圖がはっきり見られるのである。

2 収録作品の學習課題の分析

各作品の後にある「思考和練習」所謂學習課題を數編選んで分析を加え、編集者の意圖を探ってみよう。

先ず日本の高等學校國語教科書にも収録された「孔乙己」と「藤野先生」をとりあげてみる。これは収録作品一覽で見た通り、初級中學第五冊であるが、私はこの作品選擇と排列に興味をもつ。というのは前述の難易度という點と、今一つは封建制という國內矛盾が國際關係の中で、どう表われるかを組合せていると思うからである。すなわち、學習者は既に「故郷」を學んだ上で「孔乙己」と「藤野先生」を學ぶわけである。

「故郷」では少年時代、何んのわけへだてもなかった無二の親友、むしろ迅ちゃんをして新しい、美しい別世界に目を開かせてやったお兄さん格の閨土が、二十年後の再會の折「喜びと寂しさの表情をあらわし、唇を動かすが

聲にはならず、ついに仰々しく、はつきりと「旦那さま」と言う。つまり二人の壁が何故できたのかを問うており、その續きとして「孔乙己」を讀ませ、ここでも孔乙己の悲劇が生み出される根源を問うているのである。すなわち「孔乙己」の學習課題は次の通りである。

一、思考下邊一類問題、說說孔乙己是怎樣一個人物。

「孔乙己是站着喝酒而穿長衫的唯一的人。」作者在孔乙己一出場就這樣寫有甚麼用意？孔乙己爲甚麼總要穿着那件又髒又破的長衫、對人說話總是滿口之乎者也？

他不曾營生、又好喝懶做、免不了偶然做些偷竊的事、但又不拖欠酒店的錢。這些應怎樣理解？

爲甚麼旁人問他「當真認識字麼」、他「顯出不屑置辯的神氣」、而當旁人問他「怎的連半個秀才也撈不到」

時、他會「立刻顯出頹唐不安模樣」？

他問小伙計「茴」字怎樣寫、想告訴他「回」字有四樣寫法、但見小伙計毫不熱心、「便又嘆一口氣、顯出極惋惜的樣子」。這些又應怎樣理解？

「孔乙己是這樣的使人快活、可是沒有他、別人也便這麼過」。這句話有甚麼含義？

二、造成孔乙己悲劇的社會根源是甚麼？同樣是讀書人、丁舉人有權有勢、冷酷凶暴、把只偷了他家一點東西又寫了服辯的孔乙己打折了腿、而孔乙己却落得那樣悲慘的結局。小說這樣寫告訴了人們甚麼？

三、這篇小說中有關孔乙己的肖像、動作、語言等方面的描寫、文筆簡煉、不多加渲染、却鮮明地表現了人物的性格特點、仔細體會這種寫法、並舉例說明孔乙己的肖像描寫對刻畫他性格的作用。

四、下邊各句中加點的動詞用得精確、要仔細體會。

(以下省略)

問一、二では清末の科擧のもつ重みとその矛盾、科擧に失敗した讀書人のみじめさ、孤獨な生涯を把握させる。孔乙己は讀書人としての誇りは捨て切れず、かと言って傲慢さはみじんもなく、酒代のつけはためず、子どもたちにはやさしい、善良な人間であることを讀みとらせる。更に孔乙己をとりまく民衆についても考えさせる。民衆は秀才にもなれない孔乙己を笑いものにし、齒牙にもかけない。一見、たくましく、樂天的な民衆のようであるが、その實、かれらは擧人旦那のやることには何んらの矛盾も憤りも感じ得ない。それどころか、擧人旦那から詫び狀を書かされた上に脚までたたき折られた孔乙己を酒のつまみとして笑っているのである。まさに「弱者の不幸を芝居として觀る」ことしかできない民衆、恐らく擧人旦那の前では精いっぱい尻尾をふるであろう民衆を讀みとらせようとしている。

「孔乙己」を學習し、封建制度のむごたらしさを識つた生徒たちに續いて「藤野先生」を與え、今度は先の國內矛盾を國際關係の中での矛盾と結合して考えさせようとする。

「眞實の人間に進化していない中國民族」「蟲が猿にくらべて恥ずかしい以上に恥ずかしい中國民族」の實態を生徒たちはいや應なく知らされるであろう。

「藤野先生」の設問を見てみよう。

一、藤野先生是日本一位甚麼樣的學者？魯迅在文中哪些地方表達了對他的尊敬和懷念？

二、魯迅爲甚麼離開東京到沒有中國留學生的仙臺去學醫？爲甚麼一直記得“日暮里”、“水戶”兩個地名？對日本“愛國青年”侮辱自己表現了甚麼態度？後來又爲甚麼毅然中止學醫？思考這類問題、體會貫穿全文的魯迅強熱的愛國主義思想感情。

三、魯迅回憶往事是爲了甚麼？文章結尾一句話有甚麼含義？

四、寫人要抓住主要特徵、把人物的思想品質寫出來。以魯迅寫藤野先生和東京的“清國留學生”爲例、加以說明。

五、本文記述往事、從東京寫到仙臺、又從仙臺寫到北京、涉及了好多人和事、但寫得脈絡分明、有條不紊、中心突出。說說文章是怎樣組織材料的。

六、把課文裏用上“無非”、“實在”、“大概”、“居然”、“何嘗”、“似乎”這些詞的句子找出來、體會這些詞對表達句子的意思有甚麼作用。

教師的力量や文學觀によることはもちろんであるが、問一では、生徒自身から種々の回答を引き出し、生き生きとした授業風景が期待できる。問二の最後の部分には、やや公式的、固定觀念の押しつけが見られる。生徒たちは當然、魯迅の祖國愛の強さを感得するはずであり、言わずもがなの感あり、文華時代の名残りを感じさせられる。問三は非常に洗練された高度なものであり、作品のモチーフやテーマに迫らせる設問であり、編集者の力量を感じ

させられる。

尙、「孔乙己」「藤野先生」を始め、どの教材でも課題の後半には必ず表現力、作文力養成の設問が用意されており、一つの特徴と思われる。

次に高級中學第四冊「狂人日記」と「呐喊」自序」について簡単な分析を加えてみよう。

結論から言つて、最高學年にふさわしい作品選擇であり、設問もまっとうに文學作品を文學教材としてとりあげている。というのはなにより「偉大な文學者・偉大な革命家」式の固定觀念の解説がないことである。

一、這篇小説爲甚麼以「狂人日記」爲題？ “狂人”是怎樣一個人？爲甚麼他認爲封建社會寫滿“仁義道德”

的歷史、滿本都寫着“吃人”兩個字？小説用“救救孩子”作結語、顯示了怎樣的思想意義？

二、趙貴翁之流是怎樣的一伙人？作者是怎樣通過“狂人”與他們之間的矛盾、揭示小説的中心思想的？

三、口頭翻譯日記前邊的小序。想一想、小序的內容本來是虛構的、但是作者却寫得像實有其事、這樣寫對表現

中心思想有甚麼作用？

四、下邊幾段話有甚麼深刻含義？在寫法上有些甚麼特點？

把古久先生的陳年流水簿子、踹了一腳、古久先生很不高興。

(以下省略)

問一は、本文に即したすなおな設問と言える。ただ欲を言えば、自分自身も「吃人」であったという所謂「回

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

心」を通しての「子どもを救え」であること、これをふまえないと「子どもを救え」は單に勇ましい革命的發言と讀んだり、逆に消極的な願望と讀んだりの恐れがある。その意味で、加害者意識の自覺を問う、伊藤虎丸の言う「自分も普通の人間、吃人⁽⁵⁾であった」ことを把握させる設問が欲しいところである。

「A 吶喊V 自序」の問二「課文裏有這樣的對話 “假如一間鐵屋子……你倒以為對得起他們麼？” “然而幾個人既然起來、你不能說決沒有毀壞這鐵屋的希望。” 這段對話的內容比喻甚麼？表現了怎樣的思想感情？」はあれこれの解説拔きの妥當なものと考えられる。

要するに現在の「語文」教科書の特徴をまとめて言えば、内容把握や表現力養成の設問からみて、文學教育、國語教育の原點に立ち歸りつつあると言ってさしつかえないが、詳しくは次の「文革中の教科書との比較」の中で重ねて述べることにしたい。

3 文革中及び直後の教科書と現行本との比較

最初に文革中、各大學で所謂「魯迅語錄」が出版されたいが、私は哈爾濱師範學院中文系六二級卒業生が一九六七年十月出版したそれを入手したので一言ふれておきたい。

これは赤表紙の體裁から規格、編集方針まで「毛澤東語錄」と瓜二つである。もちろん意識的にそうしたのであるが、冒頭に「最高指示」として毛澤東の言った「魯迅是中國文化革命的主將、他不但是偉大的文學家、而且是偉大的思想家和偉大的革命家。……」をかかけ、末尾には「編者のことば」として、「我們的偉大領袖、偉大導師、

偉大統師、偉大舵手毛主席説……」と再び先の「最高指示」をくりかえしているのである。つまり、この「偉大な・偉大な」式の編集方針が、文革中の語文教科書にも貫徹されており、それはもはや「語文」教科書というよりは「政治学習」の教科書といった方がピッタリである。

以下は黒龍江省中學試用課本語文第八冊（一九七五年一〇月、省人民教育出版社）の目録である。

一	毛主席詞一首	一
	沁園春 雪	一
二	論人民民主專政	毛澤東 四
三	林彪は無産階級專政的可恥叛徒	一三
四	孔子的“仁”就是吃人 [※]	一九
五	開展對“水滸”的評論	二四
	概念 判斷	二八
六	旭日東昇	三三
七	林茂糧豐旗更紅 [※]	三三
八	“喪家的”“資本家的乏走狗”	魯迅 四八
九	論打“落水狗”	魯迅 五四
	推理	六二

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

一〇 更法.....	六五
附：一場前進與倒退的論爭.....	七〇
一一 答司馬諫議書.....	七三
一二 護官符.....	七七
附：讀△紅樓夢▽要抓住第四回這個綱.....	八三
一三 反對黨八股.....	八九
毛澤東.....	八九
一四 寫有分析的短文.....	一〇〇
一五 努力做到短而精.....	一〇四
附：鈴搖得更響了.....	一〇八
學習無產階級的革命文風.....	一一〇
一六 資產者和無產者.....	一一四
馬克思 恩格斯.....	一一四
一七 在法庭上.....	一一八
高爾基.....	一一八
一八 油燈下.....	一二〇
一九 共同的考卷.....	一二六
附：同舊傳統觀念決裂 奔赴農村干革命.....	一五〇
二〇 朝霞.....	一五六

(有*號的是閱讀課文)

文革中及び直後の教科書には大きく三點の特徴が見られる。その第一は収録作品の大半が毛澤東や人民日報社説、批林批孔の類であること。第二は編者が人民教育出版社でなく、省人民出版社であること。第三はもつとも注目すべき特徴であるが、學習課題の前に「提示」があることである。もちろん、全教材にあるわけではないが、「提示」がない場合は設問一がその役割を代行していることである。

「先ず「家」をなくした」「資本家の貧弱な走狗」を見ると課題の前に「提示」があり、そこで時代背景からモチーフ、テーマ、方法論まで完全に解説しつくしている。この上、何んの「思考和練習」が必要であろうか。これが現行本ではどう改訂されているか、以下で兩者を比較してみよう。

文革本（一九七五、一〇）

提示

這篇文章寫於一九三〇年。當時正是第二次國內革命戰爭時期、買辦資產階級文人梁實秋等配合着國民黨反動派的反革命文化「圍剿」、極力販賣資產階級的文艺謬論。當他們的謬論被魯迅批駁得體無完膚後、他們又施展極其卑鄙的手段、誣蔑魯迅是被蘇聯所「買收」、爲了「去領戶布」……、以此向其主子國民黨反動派獻策、妄圖借助反革命暴力、撲滅無產階級的文艺運動。魯迅在這篇文章裏、深刻而形象地刻劃出梁實秋之流喪家的資本家的乏走狗的醜惡嘴臉、有力地回擊了國民黨反動派的反革命文化「圍剿」、表現了魯迅堅定的無產階級立場和英勇的戰鬥精神。

在寫法上、本文先引出敵人的一段謬論、然後進行駁斥：先揭露梁實秋是「資本家的走狗」、再指出他是「

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

喪家的“資本家的走狗”、最後進一步點出他是個“乏”走狗。經過這樣層層深入的揭露和批駁、梁實秋的醜惡嘴臉和反動本質暴露無遺。

習題

- 一 魯迅爲甚麼說梁實秋的那段話“正是，資本家的走狗，的活寫真”？
- 二 課文針對敵人謬論逐層揭露、逐層結論、層層深入、把梁實秋“喪家的”“資本家的乏走狗”的醜惡嘴臉和反動本質揭露無遺。試作具體分析。
- 三 說說本文用“象養”“馴良”“狂吠”“嗅出”等詞的作用。
- 四 判斷有真實判斷和虛假判斷之分。凡是符合客觀事物的實際情況、符合客觀事物的發展規律的、就是真實判斷否則就是虛假判斷。指出下面這段話中哪是真實判斷、哪是虛假判斷、爲甚麼。
“要充分發揮作家創作的自由。作家的筆是他自己的、我們應該讓作家獨立創作。”這是赤裸裸的裴多非俱樂部反革命的口號。沒有抽象的自由、只有具體的自由。在有階級的社會裏、只有階級的自由、沒有超階級的自由。一切文藝創作、都是爲一定的階級的政治服務的。沒有也不可能脫離階級的政治而“自由”的文藝。

現行本（一九七九、五）

思考和練習

- 一 這篇課文緊扣題目、抓住要害、運用階級分析的方法和辛辣諷刺的語言、層層深入地進行批駁和論證、深刻

地揭露了買辦文人梁實秋的反動本質、活畫出這條“喪家的”“資本家的乏走狗”的醜惡形象、具有極大的說服力和感染力。熟讀課文、劃分層次、認真體會這一特點。

二 對“走狗”這個概念、梁實秋是怎樣解釋的？作者是怎樣分析的？二者有甚麼本質區別？作者爲甚麼這裏開始批駁？

三 具體分析“他終於不講，文學是有階級性的嗎？”了、……都是同一手段“這個長句子包含幾層意思、其中哪些分句省略了主語、這樣寫有甚麼作用。

現行本では「提示」は削除され、問一が御用文人、梁實秋の本質の解説ではあるが最少限にとどめられている。問二では、ずばり核心を問い、自分の頭で考え、内容を把握させようとの意圖がはつきり窺える。

要するに、文革中の「政治學習本」から本來の「國語教科書」への脱皮が見られるのである。このことを、「小さな出來事」の、七七年本と現行本とで再度確かめてみよう。

中學語文第二册（一九七七、一〇）

習題

一 這篇小說通過一個人力車夫救助被車把帶倒的老女人的一件小事、贊揚了勞働人民正直無私、勇於負責的高貴品質、表現了作者虛心向勞働人民學習的願望和嚴格於“解剖”自己、認真改造舊思想的決心。

課文哪些地方表現了車夫的高尚品質和“我”的自我批評精神？

二 爲甚麼“我”對幾年來耳聞目睹的所謂國家大事、文治武力都忘記了、獨有這“一件小事”永遠忘不了？文

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

中把“車夫”和“我”、“一件小事”和“國家大事”、“我”的過去和“我”的現在加以對比、這對表達中心思想有甚麼作用？

三 本文開頭先寫“有一件小事……使我至今忘記不得”、接着、再詳細交代“一件小事”的經過、最後又回到現實、寫自己的心情和感受、指出“一件小事”對“我”的教育和影響。像這樣把事件的結果先寫出來、然後再按時間順序記敘事件發生和發展的過程的寫法叫倒敘。這樣寫、能使文章一開頭就抓住讀者的注意力、使讀者急於知道“一件小事”的來龍去脈、具有引人入勝的作用。

把本文跟《六月雪》、《海螺渡》加以比較、具體分析一下順敘、倒敘、插敘的寫法有甚麼不同。

四 在“爲了保證我們的黨和國家不改變顏色、我們不僅需要正確的路線和政策、而且需要培養和造就千百萬無產階級革命事業的接班人。”一句裏“和”這個詞把“黨”和“國家”、“路線”和“政策”、“培養”和“造就”連接起來了、“不僅”和“而且”這兩個詞把前後兩個句子連接起來了。像這樣能够把兩個或兩個以上的詞、一組詞或句子連接起來的詞叫連詞。正確使用連詞可以使句子結構嚴密關係明確。

指出下列句子中加點的詞的詞性。

1 不但要團結和自己意見相同的人、而且要善於團結那些和自己意見不同的人、還要善於團結那些反對自己並且已被實踐證明是犯了錯誤的人。但是、要特別警惕像赫魯曉夫那樣的個人野心家和陰謀家、防止這樣的壞人篡奪黨和國家的各級領導。

2 風全住了、路上還很靜。

3 我從鄉下跑到京城裏、一轉眼已經六年了。

現行本（一九七九、三）

思考と練習

一 車夫と「我」對摔倒在地的老婦人所採取的態度有甚麼不同？「我」看清車夫的高尚行爲之後、在感情上產生了怎樣的變化？「獨有這一件小事、却總是浮在我眼前、有時反更分明、教我慚愧、催我自新、并且增長我的勇氣和希望。」這段話有甚麼深刻含義？

二 本文用了對比的寫法、如「國家大事」和「一件小事」對比、「我」和車夫對老婦人的不同態度對比、在「一件小事」發生前後、「我」的不同思想感情的對比、等等。具體說說這樣寫的好處。

三 本文的開頭和結尾是怎樣照應的？這兩部分和中間部分所寫的「一件小事」有甚麼聯係？

四 用下列詞語造句。

裝腔作勢 詫異

耳聞目睹 躊躇

五 寫一篇短文、記一件有意義的小事。

七七年本では「提示」こそないが、問一がその役割を代行し、ここでテーマを解説しつくしている。すなわち「車夫が老婆を助けるといふ小さな出来事を通して、労働人民の正直で私心のない、責任感の強い品性を賞賛している。作者は虚心に労働人民に學びたいという願望と、更にきびしく自己を解剖し、自己革新の決意を表現している」と。ここまで解説したのは、生徒は考える必要はなくなり、逆に主人公は「車夫」なのか「私」なのかと誤解

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

さえ生みかねない。ところが、現行本では「地面にころんだ老婆に對して、車夫と私のとった態度はどう違うか」と初歩的な問いではあるが、やはり自分の頭で考え、まとめさせようとしている。更に車夫の「高尚な態度」とは言っているが「自己解剖」とか「自己革新」にあたることばはなくなり、私の變化についても、自分で把握せようとしている。今一つ大きな違いは現行本では問四、五で短文作成を課しているのに對し、七七年本では問四で「不僅”、”而且”、”和”などの接續詞の用法を學ばせるのは良として、その例文は「毛澤東語錄」なのである。以上を要約すれば、文革中及び直後の教科書が總じて「上から與える教育」であつたのに對して、文革後の現行本は「自分の頭で考える教育」という觀點に立つて編集されていること、そこから現代中國における國語教育がようやく原点に立ち歸つたと言えよう。

4 「魯迅の神格化」と『魯迅全集』注釋の問題

「魯迅の神格化」が與える青年たちへの影響は非常に大きいし、「注釋」もまた、中學・高校の國語教科書に直結するものである。現に、八〇年本教科書中の「阿Q正傳」(抄)の注釋だけを見ても、五六年七月、人民文學出版社の注釋を底本としていることが明白である。もちろん、教科書であるからには、それ以外に難解な語句、文章にも注釋は施されている。

さて、ここでは『魯迅研究』十號⁽⁶⁾中の李何林氏の「魯迅研究中的幾個問題」をあげるが、これは『魯迅誕辰百周年紀念文集』⁽⁷⁾にも収録されており、また山田敬三氏の譯文⁽⁸⁾もあるので神格化と注釋問題に限ってとりあげ、若干の

私見を加えたい。

先ず神格化の問題では、李氏は大要次のように述べている。

四人組が魯迅を神格化したと言われているが、四人組は魯迅を神格化したのではなく歪曲・利用したにすぎない。

「風波」の張勳の復辟物語を利用して、周總理を陥し入れようとした。孔子批判を借用して、周總理や老革命家を批判し奪権闘争に利用した。

毛主席は魯迅を高く評價したが神格化したのでなく、正しく評價したものだ。

最近、學生の中には「魯迅が神様でないのなら缺點もあるはず、教師はすぐれた點だけを講ずるのでなく、缺點やあやまちも講じて欲しい」と迫るものもいるが教師たちはあまり語りたがらない。

実際にはこの數年、魯迅の世界觀の變化の時期をめぐって、みんなが魯迅の缺點を指摘している。しかし私は魯迅に缺點があったからと言って、當時、同じ問題で誰が魯迅以上の認識をもっていたらうかと思う。魯迅とて神ではない。

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

私は李氏のこれらの見解に全く同感である。しかし「注釋」の問題では、實證性に缺く批判を覺悟で、あえて疑問を提出したい。その一つは、李氏が「五六年版注釋よりはうんとよくなった」と認めながら、「現在の大學中文系の學生の中には「阿Q正傳」「祝福」等の小説があまりわからないものがある。祥林嫂は神經病だと思ひ、と一片の同情すら持ちえないものがある。……それ故にこそ、著作背景と主題思想を注記し、讀者の參考に供することがぜひとも必要……」と主張する理由である。いま一つは、「中學・高校の國語教科書中の魯迅作品も減っているらしい。……「左翼作家連盟に對する意見」も削られてしまった。これこそ兩三年來、魯迅を非難してきた同志たちの功績とされよう／＼しかしこんなことで魯迅をほんとに打倒しうるのか？」と、するどい皮肉をあびせ、まさに怒髪天をつかんばかりであるが、その理由がもっと別のところにありはしないか、ということである。

魯迅專家として精魂こめてつくった注釋が無下にあしらわれた胸中は察し得るにしても、ほんとに「阿Q正傳」や「祝福」が讀めない學生、それも中文系の大學生がいるのであろうか、ほんとに祥林嫂はノイローゼだですます學生がいるのであろうか。彼らは既に中學・高校で魯迅の作品を二〇篇近くも學んできたはずではないか。もし、ほんとにこういう學生がいるとすれば、これはもはや「讀めない」「わからない」の程度の問題ではないし、まして、注釋の有無や多少とは、次元の違つた問題ではないか。それは基礎學力の缺如か、或いはまともな人間に進化していかない特殊な人間、或いは魯迅贊美への反抗、「ため」にする言辭ではなからうか。

中學・高校の教科書から魯迅作品は減っているのか。確かに感銘深い「左翼作家連盟に對する意見」は今はない。しかし、私の知る限り、文革前、文革中、文革後を通して、作品の數は減つたとは言えない。「劉和珍君を記念し

て」があり、「忘却のための記念はずっとあり、現行本では始めに見たように一九篇もの作品が収録されている。毛澤東の二四篇は例外として、他の文學者、革命家の作品、例えば、郭沫若、茅盾、老舍、李白、杜甫、そして周恩来、華國鋒等、皆、せいぜい二〜三篇なのである。むしろ魯迅の作品が異常に多いのだ。いったい、一國の五年乃至六年制の中等教育の中で、一作家で魯迅ほど収録されている作家がどの國にあらうか。芥川、漱石にして中學・高校で各一〜二篇であったと記憶する。

魯迅はおそらく一九篇も収録されていることに驚き、注釋論争を苦笑しているに違いない。

5 現代青年の魯迅觀

『文學研究動態』八號に「華東地區部分大學生談魯迅及魯迅研究」という座談會記錄がある。これは一九八〇年末、中國社會科學院文學研究所が主催して南京大學、南京師範學院、復旦大學、杭州大學等の學生と各地で座談した時のまとめであるが、學生たちは①魯迅は神格化されているかどうか②魯迅研究の現状③實事求是の魯迅研究と④魯迅と現代青年の關係等について、率直大膽な意見を開陳している。いまその一部分を列記して、私見を加えてみよう。

魯迅の神格化の傾向は確に存在した。毛主席を除いては、やはり魯迅だった。中國は二人の聖人を残した。その結果、「坊主憎けりゃ袈裟まで」となり、魯迅の作品も愛讀しなくなつた。

現代中國における魯迅（永末嘉孝）

我々は人物評價にあたって、政治状況に左右されていたのでは實事求是の評價はできない。四人組は魯迅を利用したし、研究者の中にも「賢者のことは憚る」傾向があった。

魯迅は神格化されたのではない。歪曲されただけだ。我々は歪曲された魯迅の面目を回復し、魯迅の経験に學ぶべきだ。

魯迅の作品は愛讀するが、研究書は讀まない。原作は親しみやすく、生き生きしているが研究書は死んでしまっている。多くの回想記に至っては、魯迅を描くより、自分を宣傳している。

魯迅の讀者は減少した。魯迅と現代青年の間には壁ができたという聲を耳にするが、實際狀況は違う。各大學中文系の學生に最も人氣のあるのは、やはり魯迅である。特にその思想の深さでは郭沫若など比較にならない。

現代の青年は「考える世代」と呼ばれており、彼らは自分たちの生活と結合させて魯迅を體得し、益々、魯迅に魅かれている。魯迅の特徴である「獨立思考」は現代青年に大きな影響を與えている。中國民族はやはり魯迅の獨立思考の精神を必要としている。魯迅の國民性解剖は今も尙、生きているし、今も尙、誰の中にも阿Q

を見いだすことができる。

以上をまとめてみると「考える世代」と呼ばれるこれらの青年たちは、魯迅を尊敬し、魯迅の獨立思考の精神に學んで、「與えられる教育」よりも「自分の頭で考える教育」を望んでおり、「既成の魯迅」「與えられる魯迅」には食傷氣味であることがわかる。

こういう青年が出ていることは、魯迅研究にとつても、中國にとつても喜ぶべきことであり、且つ、こういう雑誌が出版されていることに私は拍手を送りたいと思う。

更に始めに見て来たように、政治の世界はいざ知らず、實際の教育現場では、今、まさに、初中・高中教科書において、その芽が育まれていると言えよう。

(一九八二年七・七)

付記

本稿は一九八二、五・九福岡大學で開かれた九州中國學會で発表したものに、若干補筆したものである。

注

- (1) 學術討論會は百周年記念委員會主任鄧穎超を始め全國二九の省、市、自治區代表一六〇名の参加のもとに九月一七日から開幕され、李何林氏・陳涌氏の記念講演、翌一八日には五名の専門家の報告、その後七分科

現代中國における魯迅(永末嘉孝)

會で報告、討論が行われている。「人民日報」九・一八。尚、本記事並びに記念大會の胡講話、周報告は、『魯迅研究』九号(中國人民大學書報資料社、複印報刊資料)に収録されている。

- (2) 記念切手二種(二〇分と八分・肖像入り)、メダルは四種(二元・五元・八元、以上は銅章、七九元銀章)。デザインは丸型、表に肖像、裏に「横眉冷對……」の詩句、「光明日報」八・二四参照、筆者は全て入手し

た。

(3) 釜屋修氏は「朝日ジャーナル」(、八一、一一、一三)で「魯迅の權威をかりて文藝自由化批判を行った」と言っている。

(4) 魯迅の屈原批判「帮忙から出鱈目まで」からの引用と思われる。

(5) 伊藤虎丸『魯迅と終末論』(龍溪書舎)「狂人日記」(P二二六～二二九)

(6) 中國人民大學書報資料社、複印報刊資料(、八一、一〇)

(7) 黑龍江大學《求是學刊》叢書(、八一、九)
本書収録の李講演は編者によって大幅な添削が加えられており(6)に比べて迫力に缺ける。

(8) アジアクオーターリー第一三巻第四號(、八一、一〇)

(9) 「阿Q正傳」と「祝福」の、五六年本(人民文學出版社編集部へ出版説明)、五六、七付、六三年出版)と今

回の注釋を比較したところ「阿Q正傳」では三一項目の注記が五三項目に増え、且つ今回のそれには魯迅が、三一、三、三に水上正義に與えた校注によるとしたのが三項目ある。「祝福」は八項目が一七項目に増えている。

(10) (8)の山田氏譯文「まえがき」「あとがき」並びに同氏の大修館『中國語』(、八〇、一〇)中の「何が眞實か？」——「三十年代文藝」の一側面——が、ほぼこの疑問に答えてくれている。しかし私には李氏に對する「一點のこだわり」が消えないのである。

(11) 中國社會科學院文學研究所動態組編(、八一、四、三〇)〈總第六二期〉)

中國の友人から入手したもので所謂「内部資料」と思われる。